

○いたくろ 議会だより

〔今月の主な内容〕

- ◆議長・副議長決まる…………… 2 P
- ◆新しい議会構成…………… 3 P
- ◆みなさんの代表14人…………… 4 P
- ◆3月定例会…………… 6 P
- ◆一般質問…………… 9 P
- ◆編集後記…………… 14 P

2007 6 / 1 第101号



～大人気の揚舟ツアー～

5月1日から開催されている「春の揚舟ツアー」の様子です。かつて水害時の避難用などに使われた揚舟に乗り、谷田川を周遊するスポットが人気を呼んでいます。これからの観光の振興になるといいですね。



議長・副議長が 選出されました

議長に

荻野美友氏

副議長に

秋山豊子氏

平成19年第1回板倉町議会臨時議会が5月9日(水)に開催されました。

正副議長の選挙が行われ、議長に荻野美友氏が、副議長に秋山豊子氏がそれぞれ選出されました。また、これと同時に各常任委員の選任及び委員長・副委員長の選任、一部事務組合議会議員の選挙も行われました。

この他には、町から提案された監査委員の選任について、青木佳一氏が全会一致で同意されるとともに、1件の専決処分事項が承認されました。

◆専決処分事項◆

●専決処分事項の承認について(板倉町税条例の一部改正)

議長・副議長就任あいさつ

副議長 秋山豊子

財政力の強化を図り
希望と安心の町を
目指したい



議長 荻野美友

町民が豊かな生活を送るよう
山積する行政課題に
全力で取り組む

去る5月9日に開催されました臨時議会におきまして、議長に選任されました。

不肖私、議長という大役を賜り、光栄に存じますとともに、町議会の運営という重責を担うこととなり、身の引き締まる思いでございますが、町民の皆様の負託に応えるため、一所懸命努めてまいりますと存じます。

さて、地域経済は、ようやく持ち直しの兆しも見え始めておりますが、その先行きにはいまだ不透明感があり、また、様々な面での「地域格差」

の拡大が問いただされておられ、いま、まさに「地方行政の力量」というものが試されていると強く感じております。

こうした状況の下、執行機関と不即不離の姿勢を保ちつつ、将来にわたって、町民の皆様が真に豊かな生活が送れるよう、山積する行政課題に対し、全力で取り組んでまいりますのでございます。

今後とも町議会に対し、なお一層のご支援とご協力をお願い申し上げます、就任のごあいさつといたします。

このたび臨時議会におきまして、副議長に選出されましたことは、身に余る光栄であり、責任の重さを感じております。今後は議長の補佐役として「一所懸命」議会活動に頑張つてまいります。

も財政力の強化を図り、希望と安心の町、板倉を目指したいと考えております。

さて、本町では財政逼迫のほか、少子高齢化対策、教育、環境、農業、中小企業など諸問題が山積しておりますが、知恵を出し合い、ピンチをチャンスに変えて、何として

今後とも皆様のご意見を拝聴し、微力ではありますが、「一所懸命」をモットーに精進してまいりたいと思っております。また、14名の議員一丸となり、町民皆様のパイプ役として努めてまいりますので、ご

を切にお願い申し上げます、ごあいさつといたします。

議会構成がきまりました

議会構成人事案件

●板倉町議会議長の選挙

4月22日に行われた板倉町議会議員選挙後、初議会において、議会で行う選挙です。

地方自治法の規定により年長議員（塩田俊一議員）が臨時議長となり、新しい議長を決めます。議員投票の結果、荻野美友氏が議長に当選しました。

●板倉町議会副議長の選挙

議長選挙に続いて、荻野美友新議長のもと、副議長選挙を行いました。投票の結果、秋山豊子氏が副議長に当選しました。

●常任委員の選任

板倉町議会には2つの常任委員会がありますが、各委員は議長が会議に諮り指名されることとなっています。議員の申し合わせ事項により、各議員の希望をとり、選考委員によって協議の結果、議長が指名しました。

●常任委員長及び副委員長の選任

委員会条例の規定により、各委員会で互選のうえ、選任されました。

●議会運営委員の選任

申し合わせ事項により、各常任委員会より3名ずつ（ただし1名は常任委員長）を選任し、議長が会議に諮って指名しました。

●一部事務組合議会議員の選挙

一部事務組合として次の5つの組合があります。① 邑楽館林医療事務組合 ② 館林衛生施設組合 ③ 館林地区消防組合 ④ 館林邑楽農業共済事務組合 ⑤ 東毛広域市町村圏振興整備組合
これらの一部事務組合議会選挙については、議会運営委員会にて選考し、指名推薦により行われました。

議会構成

議長 荻野美友子
副議長 秋山豊子

議会運営委員会

委員長 青木 秀夫
副委員長 塩田 俊一
委員 石山 甚一郎
委員 野中 嘉之
委員 石山 徳司
委員 宇治川 利夫

建設農政生活常任委員会

委員長 野中 嘉之
副委員長 小森谷 幸雄
委員 川田 安司
委員 塩田 俊一
委員 石山 甚一郎
委員 延山 宗一
委員 川野 辺達也

総務文教福祉常任委員会

委員長 宇治川 利夫
副委員長 市川 初江
委員 青木 佳一
委員 秋山 豊子
委員 青木 秀夫
委員 石山 徳司
委員 荻野 美友

一部事務組合

選出議員

●邑楽館林医療事務組合議会議員

青木 秀夫
野中 嘉之

●館林衛生施設組合議会議員

宇治川 利夫
小森谷 幸雄

●館林地区消防組合議会議員

市川 初江
川野 辺達也

●館林邑楽農業共済事務組合議会議員

石山 徳司
延山 宗一

●東毛広域市町村圏振興整備組合議会議員

秋山 豊子
荻野 美友

横顔と抱負

■ 2期 ■ 産業の育成、誘致を



議席 4番 年齢 59歳
住所 大荷場638 職業 農業
趣味 社寺巡礼、歴史探訪
抱負 邑楽郡内で一番広い面積を持ちながら、税源を一番持たない点は禍根となる。産業の育成と誘致を進めたい。

石山 徳司

今回就任された14名の議員のプロフィールをご紹介します。紹介内容は①議席番号 ②年齢 ③住所 ④職業 ⑤趣味 ⑥抱負の順です。

議員の任期は平成19年5月1日から平成23年4月30日までの4年間。党派別では無所属13名、公明党1名となっています。なお、掲載は議席番号順です。

■ 2期 ■ 自主財源確保を



議席 5番 年齢 56歳
住所 細谷785 職業 農業
趣味 スポーツ、旅行
抱負 産業振興を積極的に進め、自主財源確保に取り組み、希望に満ちた、活力ある町づくりを推進したい。

宇治川利夫

■ 1期 ■ 住みたいまち実現を



議席 1番 年齢 41歳
住所 岩田1312-3 職業 会社役員
趣味 モータースポーツ、野球
抱負 「住みたいまち、働けるまち、子育てしたいまち」の一日も早い実現に向けて真剣に取り組みます。

川野辺達也

■ 2期 ■ 希望の持てる町を



議席 6番 年齢 61歳
住所 飯野1976 職業 無職
趣味 映画鑑賞、読書、スポーツ
抱負 夢や希望の持てる町づくりを町民の立場に立って、公平公正、クリーンな町政を進め、経済や財政、教育、福祉を推進し、皆様と心をつなげて、誰もが夢や希望の持てる板倉町を目指します。

市川 初江

■ 1期 ■ 変革時代へ取り組む



議席 2番 年齢 58歳
住所 岩田2272 職業 農業
趣味 スキー、旅行
抱負 変革する時代への取り組みが急務、住んで良かったと思える町づくりを積極的に推進していきたい。

延山 宗一

■ 2期 ■ ニュータウンの販売促進を



議席 7番 年齢 64歳
住所 朝日野1-14-7 職業 会社役員
趣味 読書、スポーツ観戦
抱負 諸問題解決の「カギ」は、財源確保（ニュータウンの販売）です。ニュータウン販売、ニュータウン完成実現のために、住民、企業局、板倉町が一体となって取り組む協力体制の構築に努力したい。

青木 秀夫

■ 1期 ■ 希望持てる町づくり



議席 3番 年齢 59歳
住所 海老瀬4800-1 職業 無職
趣味 野球、ゴルフ
抱負 活力あふれる経済基盤を確立し、産業の振興を図り、また、伝統ある板倉の教育と文化を育み、希望の持てる町づくり実現のため、皆様の「心の声」を聴き町政に反映させたい。

小森谷幸雄

みなさんの代表 14人

■ 4期 ■ 地域産業の振興を



塩田 俊一

議席 11番 年齢 73歳
住所 板倉1995 職業 農業
趣味 旅行
抱負 初心忘るべからず、農業と地域産業の振興を図ることに最善をつくしたい。今年度より町で取り組む農地、水、環境保全向上対策に地域の皆さんと取り組んでいきたい。



■ 4期 ■ 町の活性化が不可欠



青木 佳一

議席 12番 年齢 64歳
住所 大曲441 職業 農業
趣味 ドライブ、自然散歩
抱負 市町村合併では、相当なる議論が必要になると思う。そのためには、町の活性化が不可欠であり、産業振興への真剣な取り組みに全力を注ぎたい。初心忘れることなく頑張ります。

■ 2期 ■ 元気なまちづくりを



野中 嘉之

議席 8番 年齢 64歳
住所 除川甲1023 職業 農業
趣味 音楽鑑賞、映画鑑賞、旅行
抱負 少子高齢化が加速します。財源も厳しくなります。みんなと「知恵」を出し合い「いい汗」かいて、子育てしやすい環境づくりなど、元気なまち（地域）づくりをめざして取り組んでいきたい

■ 5期 ■ 企業誘致の推進を



川田 安司

議席 13番 年齢 71歳
住所 粕谷2624 職業 無職
趣味 旅行、スポーツ
抱負 今、町の財政は極めて厳しい状況にあるので、税収のあがる企業を誘致するなどの開発を推進し、自主財源の確保を図ることが、喫緊の課題と考え、真剣に取り組めます。

■ 3期 ■ 新しい時代の農業を



石山 甚一郎

議席 9番 年齢 69歳
住所 大荷場692 職業 農業
趣味 ドライブ
抱負 新しい時代の農業と安心して住める町づくりに取り組みます。

■ 4期 ■ 住みよい町づくりを



萩野 美友

議席 14番 年齢 66歳
住所 下五箇821 職業 会社役員
趣味 ゴルフ、旅行
抱負 明るい住みよい町づくりと行財政改革は、町の根幹であります。子供達、そして後継者が居住するように、住民の声をよく聞き、合併問題、農業、諸産業の振興に一生懸命努力したい。

■ 3期 ■ 一人の人を大切に



秋山 豊子

議席 10番 年齢 60歳
住所 海老瀬1696-1 職業 無職
趣味 音楽鑑賞、ウォーキング
抱負 このたび皆様のご支援に大変感謝申し上げます。21世紀は女性の時代と言われております。一人の人を大切にとの思いで、皆様の声をお聴きし、行動し、町政に反映させてまいります。

平成19年度予算（総額95億7,812万円を） 可決しました

平成19年第1回定例会が3月2日から12日までの11日間の会期で開かれました。この定例会は、平成19年度一般会計及び特別会計の予算審議が主なものですが、その他、町行政組織改革等に伴う関係条例の制定などを含む30議案の審議を行い、いずれも原案どおり可決されました。また、議員発議2件、継続審査中の陳情2件の採択を可決しました。



平成19年度 会計別予算規模

一般会計	52億3,100万円	(49億5,400万円)
特別会計	40億0,022万9千円	(38億2,414万3千円)
老人保健	12億4,385万5千円	(12億5,500万円)
国民健康保険	16億8,475万5千円	(14億8,328万8千円)
介護保険	7億9,858万1千円	(7億8,421万2千円)
下水道事業	2億7,303万8千円	(3億0,164万3千円)
水道事業会計	3億4,689万4千円	(3億4,143万4千円)

※（ ）内の数字は平成18年度予算額

一般会計52億3,100万円 支出の主な内容

- 民生費 15億1,246万7千円
 - ① 新設保育園建設工事 ② 敬老祝金扶助 ③ 乳幼児医療費の補助
- 総務費 6億3,033万円
 - ① 県議、町議、参議院、県知事等の選挙 ② 財務会計システムの導入 ③ 路線バスの運行 ④ 行政区運営の補助 ⑤ 道路反射鏡設置工事
- 土木費 5億9,494万1千円
 - ① 道路改良工事 ② 河川の維持管理 ③ 公園の整備 ④ 西丘神社周辺の整備
- 衛生費 4億4,857万円
 - ① 住民健診事業費 ② 各種予防
- 農林水産業費 2億6,974万8千円
 - ① 農道、排水路の整備 ② 内郷土地改良事業 ③ 転作物団地の助成 ④ 産地育成補助
- 防接種費 ③ 合併処理浄化槽設置補助 ④ 資源ごみ処理費
- 消防費 2億8,821万2千円
 - ① 館林地区消防組合負担金 ② 防災行政無線工事 ③ 水防センター調査費
- 教育費 5億7,419万5千円
 - ① 自動体外式除細動器の設置 ② 中央公民館外壁改修工事 ③ 水郷景観保存計画策定調査
- 商工費 5,201万6千円
 - ① 板倉まつりの運営補助

◆ 質疑

ニュータウン内北調整池付近で、大量のフナやコイが浮いて死んでいた。

Q 野中議員

河川・湖沼水質検査をされたのか

A 環境課長

また、一級河川の泉野川から赤茶けた水が流れているのを目撃したが、因果関係は。以前にもフナ等が浮いた経緯もあり、県が水質検査や検

【予算質疑】

議会最終日の3月12日(月)に新年度予算について活発な質疑が行われました。



12名の議員が

環境、福祉、産業

財政、教育などに

ついて幅広く

質問をしました。

体等実施したが、特に異常はなかった。
路線バス南線の存続は

Q 荻野議員

路線バス運行が財政悪化により、南線(館林・明和・板倉線)は廃止になるのか。

A 総務課長

路線バスはお年寄りの足の確保を目的にスタートした。収支率により平成19年度から補助金が打ち切られるが、路線が無くなるということではない。

指名競争入札落札率の引き下げを

Q 青木(秀)議員

保育園の建設費については、指名競争入札の導入はもとより、工夫して落札率の引き下げに努力されたい。

A 福祉課長

今後、契約や設計業務に入るが、落札率の引き下げ等、念頭において発注したい。
身障者用トイレ改修はどのようなものか

Q 秋山議員

役場第二庁舎の身障者用トイレ改修工事は、何基改修してどのようにするのか。

A 総務課長

役場第二庁舎のトイレは、スペースの関係で、1基のみ改修し、車椅子が入れるようにしたい。
便座もウォームとウォッシュレット装備としたい。

給与システム関連の使いみちは

Q 鈴木議員

給与システム保守委託料、給与システムリース料の内容について伺いたい。

A 総務課長

今回、財務会計システムが立ち上がる関係で、システムを新たに構築するための経費である。

護岸工事に伴う県とのかかわりは

Q 石山(徳)議員

群馬の水郷整備については、町及び東毛広域圏の予算を使い、護岸工事を毎年実施しているが、県の河川に対して、なぜ行政が負担をしなければならぬか。

また、谷田川第1機場の管理運営面について、町主導で取り組む考えは。

A 産業振興課長

群馬の水郷は、東毛広域圏が整備した事業で、谷田川河川敷の民地を用地買収し、公園化を図った。
護岸工事費として、町が500万円、東毛広域圏が500万円、合計で1,000万円の工事を実施する。なお、今回が最終年度となり、すべて完成する見込である。

A 町長

谷田川第1機場の関係については、今後とも町の意向や要望等、積極的につないでいきたい。



▲護岸工事が進む水郷公園の釣り池

児童数減少に伴う対応は

Q 宇治川議員

北小学校の児童数については、町内の各小学校で一番少なく、町全体としても減少傾

向にあるが、統合など少子化対策について聞きたい。

A 教育長

少子化対策については、町全体として対応を考える必要があるが、現実的に難しいが、1学年に2クラスが理想である。

小学校は地域の拠点施設であることを踏まえ、ぎりぎりまで運営したい。今後は、統廃合も含め、小規模特認校制度の導入も検討したい。



▲登校する子どもたち

Q 寄井揚水機改修の内容は

Q 根岸議員

寄井地区揚水機施設改修の関係は、運営管理費ということで、年間10アール当たり2,500円前後の徴収がされているが、現在作付していない場所に対しても一律徴収しているのか。

A 産業振興課長

寄井土地改良は、畑地帯かんがい整備事業としてはじまった事業で、この地区は現実的に田んぼが多いが、土地改良の関係で畑地帯として設計した経緯があり、その関係でポンプ能力が弱く、西の方に来ると水が出ない状況である。これらを考慮し、国の補助事業である維持管理適正化事業の活用を図り、過去4年間受益者負担として、年間20万円分担当金を納めている。その改修工事費として、300万円を予算計上し、地元負担については、約50万円であり、他は補助金である。

Q 新センター用地の活用は

Q 塩田議員

新センター用地については、十四、五年前に非農用地として、町が買収したが、その当時は、総合運動場や体育館など、建設の提案もあったわけだが、未だかつて活用が図られていない。今回も開発公社費として利子補給分1,500万円の計上があるが、この土地は、毎年利子を払っているだけで、何のメリット

もない。

A 町長

新センター地区は、計画した当時と時代の変化により状況が変わってきた。企業によつては、土地を購入したいというところもあり、売却することも一つの方法だと思つるので、今後とも研究したい。

Q 公共施設借地料の見直しは

Q 黒野議員

わたらせ自然館や北部公民館の多目的広場など、町が借用している土地があるが、財政厳しい時代でもあり、見直す時期にきているのではないかと。利用者が少なくても将来的にも継続していくのか。

A 企画財政課長

利用頻度の少ない借地については、無駄な経費をかける必要もないので、総合政策課の政策秘書係で研究をしていきたい。また、財政厳しい状況もあるので、事業の見直しも含めて、借地関係も課題に盛り込み検討していきたい。

A 教育委員会事務局長

教育委員会として、わたらせ

せ自然館や北部公民館の多目的広場などを含む借地施設をかかえているが、事業内容そのものが、費用対効果で判断されると厳しい状況もある。今後とも利用者の増員を図り、積極的に事業内容の周知をしていきたい。

Q 川田議員

Q 介護慰労金の値上げはしないのか

Q 川田議員

寝たきり老人を在宅介護している家族に対して、町で介護慰労金として、1人年間8万円、月に直すと約6,500円を支給しているが、あまりにも低額であり、家族の慰労を考えると値上げをしないのか。

これに関連して特別養護老人ホームは、1人当たりの諸経費が、約30万円くらいかかると思うが、町で月額どのくらい負担して、待機者が何人位いるのか聞きたい。

A 福祉課長

板倉町の待機者については、在宅27人、老人保健施設入所24人、病院等に入院4人、その他5人、合計で60人である。また、町の請求分は、介護度4の方が、約25万円、介護度5の方が、約26万円と

なる。

A 町長

介護慰労金は、板倉町として、在宅介護している方に対する当面できる措置として、8万円支給している。今後全体的な事業の見直しも必要であり、本当に必要なところに配分できるように検討したい。

Q 大原地区の整備の考えは

Q 石山(甚)議員

小規模土地改良事業で北地区へ続く農免道路西側の掘が途中まで継続して整備されてきたが、今後、予算化して実施する考えはないのか。

A 産業振興課長

小規模土地改良事業の大原地区の予算化については、今回、他の緊急性の伴う場所へ振り向けた経緯があり、12月の大雨による第一石鹼周辺の冠水に伴う整備。その他に山幸という会社付近の水路のノリ面が壊れ、建物等に影響が出る恐れがあり、この2箇所緊急的な措置として予算化した。なお、大原地区は、今回、見送るが将来的には整備していきたい。

一般質問

議会 4 日目
3 月 5 日(月)

① 青木秀夫 議員

教育格差の是正策は

漢字の読み書き教育の推進で



学力低下というが
実態はどうか？

問・教育再生会議では義務教育の学力低下を心配しているようであるが、教育現場を知っている教育長は、今の子どもたちの学力についてどのような認識を持っているか。

答・教育長 板倉町の子どもたちの学力が低下しているという認識はもっていない。以前に比べると、確かに子どもたちの学力は相当いろいろな面で向上していると思つてい

問・教育の二極化の流れは地

方にも確実にやってきている。教育の二極化は、やがて経済の二極化に連動し、それが固定化されると、アメリカのような犯罪社会をつくり出すことになりかねない。そうなるからでは手遅れである。そうならないうちに、保護者、学校、行政など町ぐるみで教育の二極化対策を推進すべきであると思うが。

答・町長 教育再生会議については、地方分権とは裏腹に、国が地方をコントロールし、今、国が進めている競争社会を教育に押しつけようとしている気がする。例えば、「ゆとり教育」を見直して授業時間を増やすとか「全国学力テスト」を実施して競わせるなど大変心配し

ている。そういう中で、国の思わしくない面を地方では正していくということが大切であると考える。教育の二極化を防ぐために町もより一層努力しなければならないと思つている。

問・教育の二極化対策の「カギ」は「基礎基本の徹底」「漢字の読み書きの習得」ではないかと思う。一定の漢字能力を備えていけば、いかなる時代、社会にも生きていけるはずである。教育長権限で国語教育、特に漢字の読み書き教育の徹底化を進める考えは。

答・教育長 教育委員会、学校長会議でも基礎・基本が一番大事なことは、指摘の漢字教育であると認識している。具体的には、

各小学校とも教員独自で子どもが励みになるような漢字マスターファイルという仕組みをつくつて実施している。中学でもそのような仕組みを学校独自で考え行っている。漢字検定を受ける生徒も年々増えているので、その辺についても一層力を入れていきたい。

駅前商業地活性化に 財政出動の検討を

問・先日、企業局主催の「まちづくり座談会」で販売センターから板倉東洋大駅前商業地への出店をいろいろな業種に働きかけているが全く無反応、お先真つ暗という状況にあるという報告があった。民間の活力を期待できない、こういう時期こそ行

政の力が発揮されるべきではないかと思う。行政は利潤を追求するだけの団体ではないので、財源難とはいえず、公共性ということでリスクを負う財政支出も含めた駅前商業地活性化策を企業局に働きかけるべきでは。

答・町長 指摘のように、板倉ニュータウンについては、放つておくと恐らく店舗が入つてこないのではないかという懸念がある。近々、企業局と相談する機会もあるのでその中で板倉東洋大駅前商業地活性化策を議題に出していきたい。貸店舗についても、判断が難しいが何らかの対応策は必要であると考えているので、企業局と積極的に話し合いをしていきたい。



▲空き地となっている板倉ニュータウン駅前商業地

一般質問

議会4日目
3月5日(月)

② 鈴木敏夫 議員

19年度予算の財政問題を問う
財政調整基金等、基金の取り崩しは



予算作成の基本方針と
重点施策は

問・19年度の予算編成の基本方針と、重点施策及び財政問題を聞きたい。

答・町長 19年度予算も厳しい財政状況にあるが、新時代のまちづくりに向け、町民生活の安定と向上、町政の明るい展望を開くと同時に、持続的な発展を目指して各種の施策を実施しながら健全財政を堅持していくことを基本方針として、一般会計予算総額52億3,100万円を計上した。重点施策としては、1点目に

安心して暮らせるまちづくりとして、衛星による防災無線の整備、行政防災組織の整備、さらに役場や各公民館等に自動体外式除細動器を設置し、もしものとき早急な対応がとれるように図ってきたい。福祉面では、少子化時代の子育て育成に対応する新設保育園を建設。2点目は、活力を生み出すまちづくりとして、雷電神社、西丘神社の周辺整備を行い、観光面と連動した地域の活性化を目指したい。3点目に、自立と継続のまちづくりとして自主財源の確保のため、岩田流通団地誘致企業の遅滞ない業務運営と雇用促進を図るとともに、ニュータウン販売促進に努め、入居者の

増加に伴う税収確保に努めたい。4点目に、一人一学を目指すまちづくりとして、社会教育の拠点である公民館事業の充実を図り、中央公民館の外壁補修工事を行う。さらに東小の耐震診断等、厳しい財政事情での施策実施であることから内容など十分検討した上で実施したい。

答・企画財政課長 19年度末

各種基金の見込額は、財政調整基金2億9,300万円、減債基金13億8,300万円、公共施設等の整備維持基金7億7,500万円、庁舎等建設基金3億円、さらに、ふるさとづくり事業基金2億5,600万円、福祉基金2,500万円、土地開発基金6億4,100万円、合計37億700万円となる見込である。町の力としてどのくらいの予算規模が適当か。全ての事業の見直しを図り、47億円程度なら基金等を取り崩さずに運営できると答えたが、その後三位一体改革で交付税が減額されている。町は3割強をこの交付税に頼って財政運営をしてきた。交付税の先行きが見えない中で、財政シミュレーションでは、43億円が望ましい。しかし、20年度から43億円予算ができるかという難しい。これまで総合計画に基づいて実施してきたが、これから新規のものをどうするかという議論をしなければならぬ。町民にきちんと説明して理解が得られるようにしていきたいと考えている。

問・板倉町の財政規模、今の町の力としてどのくらいの予算規模が適当か。

答・企画財政課長 16年度に

全ての事業の見直しを図り、47億円程度なら基金等を取り崩さずに運営できると答えたが、その後三位一体改革で交付税が減額されている。町は3割強をこの交付税に頼って財政運営をしてきた。交付税の先行きが見えない中で、財政シミュレーションでは、43億円が望ましい。しかし、20年度から43億円予算ができるかという難しい。これまで総合計画に基づいて実施してきたが、これから新規のものをどうするかという議論をしなければならぬ。町民にきちんと説明して理解が得られるようにしていきたいと考えている。

国民健康保険の支出増は

問・国民健康保険の支出が大きく増えている。今後どう対応していくのか。

答・町民生活課長 最近の国

保の動向では、医療費の伸びに対して国保税の伸びが少なく、高齢化と少子化の中で医療費がどんどん伸びている。19年度は見直しを図っていかないと見ればかなり財政的に厳しい状況である。

産直「季楽里」の現状は

問・季楽里の決算見込状況と指定管理者への考えは。

答・産業振興課長 18年度決算見込で、総売上げが1億1,100万円を超え、売上げ利益が1,790万円、経費が1,474万円ぐらいである。現在2名の職員給与は町会計から別途支払っている。

答・町長 年間300万円強の利益を生じているが、人件費を含めると赤字になる。今後、指定管理者制度に視野を向け研究していきたい。



▲産直「季楽里」

一般質問

議会 4 日目
3 月 5 日 (月)

③ 秋山豊子 議員

時代の希薄化を思うとき

ブックスタート事業の重要性を感じる



ブックスタートは
親子の根幹をなす本当の基礎

問・ブックスタート事業は、

乳幼児の健診の際に健康指導とともに保護者と赤ちゃんに絵本を手渡し、親子読書を通じ、豊かな心を持った子どもを育てる事業である。今では全国的に事業が拡大され、その重要性を感じている。町長、教育長の所見は。

答・町長 この事業は子育て支援の一つとして大切な事業であると認識している。乳幼児健診時を活用して、読み聞かせポラン

答・教育長 町には図書館が

ありません。でも図書が充実、町民が気軽に本に親しめるということを含めて四つの公民館に図書

ティアの方々に協力いただき、絵本を読み聞かせその後保健師などを交えて子育てに関する相談などが実施できるように努力していきたい。

室、図書コーナーを整備している。また、情報化時代であるので県内、東毛地域のほかの公立図書館にある本については公民館のパソコンで検索ができ、板倉町になくても近隣の町村の図書館にある場合は照会ができる。どういふ本が板倉町にあるかもわかる。それに町

災害弱者への備えは万全か
具体的な取り組みは

問・本町では町民挙げての防

災訓練や地域での自主防災訓練を実施している行政や事業所もあるが、支援が必要な身体障害者やひとり暮らしの高齢者など災害弱者に対しての備えはできているのか。災害時の情報伝達方法など具体的な取り組みは。

答・町長 地震や台風など自然災害が発生したときの情報伝達手段については災害弱者に限らず、町民全体に対しても重要な課題である。最も確実で有効な手段というのは隣近

内にある図書については、各家庭のパソコンから検索ができる。各公民館では読み聞かせポランティアにお世話になり、特に幼児期の子どもたち

所の相互協力にまざるものはないということで、18年度当初から行政区にお願いし、32行政区のすべてに自主防災組織の立ち上げを推進してきた。現在半分の16行政区で自主防災組織が立ち上がっている。引き続き立ち上げに向け依頼していきたい。災害弱者と言われる独居老人世帯、寝たきりのお年寄り、要介護等何らかの支援が必要な人数は140人の上っている。一番大事なことは町民個人個人が災害に対する認識を高め、まず第一段階でお隣近所というか、少なくとも行政区の中でどこにどんなお年寄りがいるか、あの人は誰がどうするかということ

をきちんとした自主防災組織が何といても大事であることから今後も極力各行政区で自主防災組織を立ち上げていただくように努力していきたい。全体の町民に対する情報伝達については、いろんな方法を駆使して情報の伝達はしていきたいと考えている。



▲本に親しむことは知識を豊かにします。
(中央公民館図書室)

一般質問

議会 4 日目
3 月 5 日 (月)

④ 石山徳司 議員

民間委託では不可能な事業もある
共済制度拡充を望む視点に立ち問う



風水害・土砂崩れ・地震の3要素が加わった総合共済制度

問・近年温暖化の影響なのかダウンバースト、竜巻などが発生し、生命財産を一瞬に奪っていく惨状を見るにつけ共済制度の拡充が望まれる。特に共済制度運営は一般財源化され、建物共済制度への加入は必然的に非農家でも加入できるのではないのか。さらに総合共済制度の創設は地震、風水害、土砂崩れなどの要件が加味され全ての人々対象の補償制度といえるが、地震の場合のみ補償割合が

30%となる理由は。

答・町長 農業共済制度下の建物共済は、農林水産省の認可を受けて実施されている事業となる。契約条件は、建物の構造種別等の区別はあるが、非農家であっても制約はなく、平等な条件で加入できる。総合共済は建物共済に風水害、雪害、地震被害等の自然災害補償が加わったもので、加入金額で被害補償額が決まり、地震被害については、1等地から4等地区分設定が付き、群馬県は2等地になつている。掛金の負担総額と加入安易度を考慮して補償割合が30%となつている。

問・全国で地震保険への加入割合は20%強となる。地震保険の運営は別枠運営となり、補償割合も30%

穏やかな谷田川の流れ
永遠に続いてほしいものです



50%の範囲となつている。一方、公共施設は激甚災害法の適用で、全額税金で補償行為がなされ

ると聞くが。

答・町長 激甚災害制度は法律に基づいて、地方財政負担の緩和、被害者に対する助成が特に必要であるときに、激甚災害と政令で指定して、特例措置を実施する制度と言える。全国的規模の場合と市町村単位で指定するものがあるという。補償対象は公共施設、農地、農業施設、中小企業施設関係などをいう。

問・現代の社会生活は、金融政策の下で運営されていることは否定できない。ニュータウンなどの新興住宅の大部分が、ローンの組み立てで運営されている。個人の資産保全を考える時、公共施設同様災害に対する補償枠組みを再考すべきと思う。現状の地震保険加入率を仮に80%台に乗せれば、掛金を今の半分くらいに出来るのではないか。

答・町長 激甚災害による個人住宅関連救済措置はないようだ。農業共済制度の建物共済、民間保険の地震保険に加入して守るしかないのが現実だ。公

的なもので考える時期との指摘には、関係機関との連携や研究をまたねばならない。新潟中越地震では2, 515棟の全壊住宅があり、激甚災害指定基準8のBに該当した結果、罹災者入居住宅建設に補助金が国から4分の3出たと聞く。

進行中の東毛農地防災事業の現状は

問・農地防災事業の工区設定は昭和52年時点の現況把握の中、決定されたと聞く。区域内においては、農業関係諸施設の有機的な再構築を促す制度と判断する。細谷、大荷場、大曲前県道と集落間の排水路がひどく、改修工事を防災事業に組み込むべきでは。

答・産業振興課長 防災事業は、平成12年に認可された事業で、第一機場と幹線排水路が国営で改修中である。この補完として県営附帯事業も進められている。農地防災事業は、市街化区域内の工事は対象にならない。

一般質問

議会 4 日目
3 月 5 日(月)

⑤ 宇治川利夫 議員

邑楽土地改良区の移管問題

賦課金半減、維持管理、職員待遇は



請願書提出後一年が経過
その成り行きは

問・邑楽土地改良区の町移管に向けたプロジェクト委員会というものは、どんな目的で、いつ頃設立し、どのような人たちが構成されているのか。

答・町長 昨年の3月議会において請願書の採択を受け、翌4月に設立した。9月から現在の邑楽土地改良区管理移管推進協議会幹事会という組織、構成が決まった。幹事会の構成は、町職員と邑土理事及び職員、館林農村

答・産業振興課長 決定する機関ということで、幹事会の上の組織として管理移管推進委員会を設立し

整備センター職員で構成され、今年の2月までに計7回開催し、検討をしてきた。幹事会の目的は請願書に沿って邑楽土地改良区を町に移管して、邑土賦課金を半減するため、これまでの邑土業務全般にわたって十分検証して、上位機関の管理移管推進委員会に諮問することを目的としている。

問・7回の会議開催ということだが、中身がなかなか伝わってきていないのが現状である。移管についての話がどのように進んでいるのか。今後の取組みと移管の時期はいつ頃か。

た。そこで話が決まったことが、邑土の総意で排水を町へ移管したいということである。それを受け、町が排水について担うという決定を見た。19年度中の早い時期に移管ができればと考えている。移管については請願書の内容から全面移管とあるが、邑土の業務が用水、排水という形で従来行ってきたおり難しい面がある。邑楽頭首工が館林にあり、農家の方々も館林の商業地の関係者も受益に入っている。用水事業については当面、町への移管は難しいということである。さらに賦課金を下げるためには職員の削減を図り、削減した職員については、町が受け入れを行うという形で

邑土に提案している。
消防団員の活動における協力事業所優遇措置の考えは

問・町の建設事業者が指名競争入札に参画する格付基準で、従業員が消防団員であったり、災害時の応援に関する協定を締結したりする事業者の審査事項評価を加点する優遇措置の考えはあるか。

答・町長 町の建設工事にかかる業者の格付けは、客観数値として所属する社員数や技術者の人数、受注実績等による経営審査事項の評点と、主観数値としての受注工事の取組み、完成検査の評点の二つを合わせて格付を行っている。消防団員のいる業者や災害協定を締結し、率先して復旧活動に携わる業者については、町としても地域の安全に十分貢献していると理解している。こうした地域社会に貢献している企業等は評価を上げ、その努力に報いることも必要と考えている。

問・20年度建設予定の板倉分署予定地は、財政面から

考えても今ある町有地を有効活用してはどうか。
答・町長 新しい用地を確保するとなると、最低3,000平米ぐらいは必要である。金額的にしても大変な金額になる。町有地を使用すればゼロになる利点もあるが、こと消防に関して火災や救助のことは一番に考え、場所の選定を優先せざるを得ないことから、1-12号線、通称公園通り線を

考えている。



▲平成20年には新設移転が予定されている消防板倉分署

全国町村議会議長会表彰



自治功労者受賞

議員在職15年以上を対象とした「全国町村議会議長会自治功労者表彰」を、川田安司議員が受賞されました。

伝達式は3月2日に開催された定例議会開会前の席上で行われ、当日はこの表彰と併せて、群馬県知事からの感謝状の贈呈も行われました。

今後とも町政発展のため、なお一層のご活躍を期待するとともに、心よりお祝い申し上げます。

今、町政はどう動いているのか？

議会傍聴

議会の本会議は公開制となっています。どなたでも自由に傍聴することができます。

議会傍聴についてのお問い合わせは議会事務局、電話82-1111内線511番までお問い合わせください。

なお、次の定例議会は6月13日(水)からの予定です。



請願・陳情審議結果

継続審査中であった次の2件の陳情が、3月議会で採択されました。

- 町道4087号線拡幅整備についての陳情
陳情者 第10行政区長 小池敏夫
- 町道4031号線の拡幅改良工事（北海老瀬地内生活圏道路整備）についての陳情
陳情者 第8行政区長 佐山和雄

ホームページで見られます

議会だより&会議録

議会だより・会議録は町のホームページでも見ることができます。

<http://www.town.itakura.gunma.jp/>

編集後記

仏教に諸行無常の思想がある。地球創世期以来、万物の姿は一瞬たりとも止まることなく、変遷を繰り返す自然の摂理を現わす。
先般の議会議員選挙でも然り、議会活動の流動化を暗示する。俗世においても能力主義、競争原理が表に出て、負け組みや二極化社会が、政治課題となってきた。
地方財政の逼迫は、資本原理に基づき、効率化と広域化を促がすはずだ。合併論議は避けて通れない。
しかしながら、人間の幸福感だけは、個人に与えられた創造主の贈り物、常に心に置きたいものだ。自分の心が決める唯一の恒常なるものといえる。

(石山徳司)

『広報委員が代わりました』

これからも親しみやすい
“議会だより”をめざします。



委員長：石山 徳司	副委員長：野中 嘉之
委員：市川 初江	委員：小森谷幸雄
委員：延山 宗一	委員：川野辺達也
議長：荻野 美友	副議長：秋山 豊子